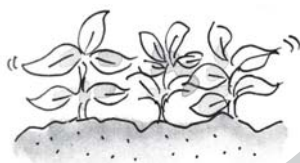


# 楽しく儲かる農業 みつけた

2016 October Vol. 152  
**10**月号

役に立つ情報満載!  
ニュースレター



静岡農業技術支援協同組合 発行

## 土壤病害はなぜ発生する!

土の中に肥料を投入すると  
「土壤病害」が発生するのはなぜなのか

## 玄米アミノ酸微生物農法

冬場の「乳酸菌もみがらぼかし」は  
水分過多にならないように注意する!

## 玄米アミノ酸微生物農法Q&A

トマトの花落ち、未着果、  
ガク枯れが頻発!樹勢も低下…?

## 高収益農業を実現するには!

「光合成」で栽培を単純化すれば  
高収益農業への道が開ける!

## 農業経営者育成塾生のご紹介

会社勤務をしながら  
「農業」の両立が実現できた喜び!



土壤病害は  
なぜ発生する!

# 土の中に肥料を投入すると

## 「土壤病害」が発生するのはなぜなのか

農業は作物を問わず同じこと

の繰り返しをする。種や苗がある、農地がある、肥料を入れる、定植する、育てる、収穫するというパターンである。今回は「肥料」を入れるということにフォーカスしたいと思う。多くの生産者は、肥料を入れて育てると考えるのが常識である。農業の専門書にも、そう書いてある。そう書いてあるが、どれくらいという量については、まったく書いていない。そこを勝手に解釈してしまう。肥料は多ければ多いほど、よく育つのではないかと思ってしまうのである。これは、本当なのだろうか。



えーと。そもそも肥料を土の中に入れるとはどういうことなのだろうか。

土は岩石が風化してできた無

機物である。無機物というのは生命としての働きはないということである。消化力なんていうものはない。そこに栄養源となる肥料を入れる。根が吸収する分を除いては、そのまま土の中に残る。何も変化せずそのまま残っているのであれば、次に肥料なんてやる必要がない。残っている肥料を使えばいい。ところが土は無機物だけれども、土の周囲には酸素も水もある。生き物もいる。湿度もある。そのまま残ることはできない。変化していく。酸素と水で栄養分が変化する。酸化する。腐敗する。有害物質になる。そこにまた肥料を入れる。また多い分は残る。この繰り返しになる。病害が出る。繰り返していくうちに、土の中は汚れていく。害虫が出る。どんな病害や

どんな害虫が出てくるのか。誰も予測できない。



消毒をして殺す、消毒という毒を土の中に入れる。さらに土の中は汚染していく。作を繰り返し

ほど問題が出てくるのはこのためである。土は無機物だから、消化する力はまったくないのである。このことが理解できていない。「しかし肥料がなくて育たないのではないか？」それはそう思い込まされているだけである。例えば、乳酸

菌もみがらぼかしを10アールに300kg、後は10アール当たり100kgの追肥だけで栽培すれば、病害、虫害はほとんど発生しない。発生する原因がないのだ。もみがらぼかしは完全に醗酵してすでに消化を終了している。土の中に入ったら風化するだけである。栄養分としては残らない。

土の中には何を入れてもいいというわけではないのである。土の中に入れて問題が出るようなものは入れてはいけない。

それではどうやって育てるのか。「光合成」である。光合成は植物が自分で栄養を作ることができる機能のことである。根はそこにあるものを吸収する。光合成は自分で栄養を作る。どちらの方がより多くの栄養を吸収できるのだろうか。ダントツに光合成である。根の量と葉の量を比較すれば総量においても断然葉である。農業が苦しくて、重労働の大きな原因は、チツンで育てるという固定観念に縛られていることである。チツンは投入するほど収益は減る。これは次回である。

高収益農業を実現するには！

## 「光合成」で栽培を単純化すれば

### 高収益農業への道が開ける！

高収益農業を実現するにはいくつかのハードルがある。第一の関門は**栽培**である。これを単純化しなくてはいけない。複雑だと時間と費用がかかりすぎるのである。栽培を単純化するためには何が**重要な**のか。**それは考え方である。**

考え方を換えなくては単純化はできない。土づくりとか化学肥料や農薬なしでは作物は作れないと考えている間は、単純化なんて夢のまた夢である。「**土づくり**」これほど漠然としていい加減な言葉はない。土は何年かかかってできていると思うか。何億年もかけて岩石が

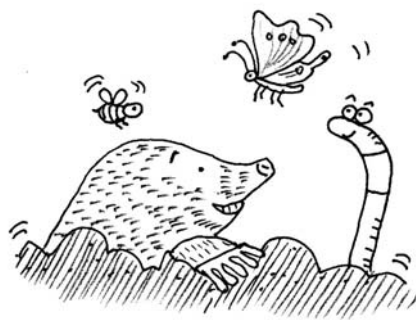


風化したものである。土がわずか一年や二年でできると思うか。そんなに簡単に**変化**するわけがないのである。

多くの方がやっていることは、

**土の中の栄養**づくりである。土づくりではない。しかし土の中に**栄養**を多く入れるほど問題が発生する。土には消化力がないからである。それなら土の中に何を**作る**なくてはいけないのか。「**生物**」である。栄養ではない。**生物には栄養を消化する力がある。**土に足りないものを補うことができるのである。生物といってもいろいろある。小さいものは微生物、大きいものはミミズ、さらに大きくなるとモグラである。菌類も生き物である。この中でもっとも有効な生物は「**好気性の微生物**」である。好気性の微生物は、土の中で働くかどうか。なるのだろうか。土の中にある**栄養**物を食べてくれる。食べるというのは、消化するということがある。消化されたら排泄物が出

る。これが植物の**栄養**になる。チツソ、リン酸、カリも含み、ビタミン、ミネラルもある。**植物にとっては、もっとも書の少ない完全栄養食である。**



好気性の微生物の働きというのは、自然の力である。人間の力ではない。そういう**自然の力**を活用しなければ**栽培を単純化**することは**不可能**なのである。微生物が作り出す肥料は人間の力では作ることができないのである。緑肥

を育ててすぎ込みをする目的も、微生物を育てるためである。

土づくりが間違つて理解されている大きな原因は、土の中に**栄養**物を投入するという**考え方**にある。土は汚染されていくだけなのだ。土が必要としているものは、**好気性の微生物**なのである。土と共存できるのだ。土を住処にして、土の働きを助けることができる。作物が育つ土になるかならないかは、微生物で決まる。土は無機物だから**変化**しない。しかしその中で、微生物が活動することにより土は**変化**していく。

土と微生物は一体になり生命を持つことになる。不思議なことだが**事実**である。これは人間の力ではできないのである。人間ができることは、土にもっともなじみやすい**好気性**の微生物を培養して、土の中に入れてやることだけなのである。しかし、その微生物の働きは**とんでもない**パワーを持っている。その力を活用すれば、栽培は**単純化**される。微生物の**パワー**に任せれば**いい**だけなのである。これが高収益農業を実現するための**最初の**一歩である。

# 会社勤務をしながら

## 「農業」の両立が実現できた喜び！

新しい仕事に取り組み時は誰でも不安があるだろうと思う。時に転職となれば生活がかかっている。それも農業で自立となれば、周囲の家族も不安でいっばいになる。でも現在の仕事に不安があつて、見通しが立たないとすれば、何かにチャレンジせずにはいられないのである。伊藤文彦さんもその中の一人だった。農業で収入が確保できるなら考えてみたいというのである。もちろん農業は未経験である。同居するお母さんが、自分の家で食べる物を作っている程度だった。実は農業で自立を考える人には、伊藤さんのような方は少ない。行政に相談に行く。慣行農法を指導される。利益が出ない。生活はさらに苦しくなる。



お金に余裕がなくなってきたからでは何をやってもうまくいかなかった



そこで伊藤さんに提案をした。「仕事をしながら、農業をやってみてはどうだろうか...」。最初はそんなことができるの?...である。仕事をしながらには、大きな三つの意味がある。一つ目は現在の収入を失うことなく確保できる。二つ目は農業の技術を現場で学べる。三つ目は周囲の家族も納得してくれる。安心してチャレンジできるわけである。でもそんなことができるの?...である。玄米アミノ酸微生物農法ならできる。会社に勤務しながらでもできる方法を教えるのである。そこでジャガ芋の栽培を試してみた。週に一回畑に行つて、手をかける程度である。その結果、農薬も化学肥料も使わずに作物が実つた。思った収量ではなかったけれども直販をした。お客様には大変に喜んでいただいた。

農薬がダメというアレルギーの方には、特に感謝された。この他にも少量だけでも、白菜、白ネギなど多種の野菜を作ってみた。いずれも思う通りの結果が出た。イチゴの甘さには家族もびつくりだった。

年が明けて、栽培のやり方も覚えて規模を拡大してやってみようということになった。土には乳酸菌もみからぼかし、葉には玄米アミノ酸酵素液の葉面散布。それだけでもおもしろいように作物が育つた。家族の理解も得て、新品のトラクターを購入できるまでになったのである。それで独立したのかというと、独立は先延ばしになった。働きながらも、農業収入が得られることが分かったからである。独立は運気を見て、最善のタイミングでやれば良いと考えるようになった。仕事も楽しく、農業も楽しく両立できたのである。これで農業所得が増えれば、家計はもの凄く楽になる。農業とはそういう仕事なのである。

伊藤文彦さん  
千葉県木更津市  
下郡595-5  
TEL  
090-4537-6757



結果がイマイチという方。  
迷わず電話かFAX下さい。

TEL 0120-870-441 FAX 0120-870-442

〈受付時間 月～金(9:00～18:00) 土・日・祝・年末年始(休業)〉

静岡農業技術支援協同組合

〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松2-15-26

TEL.054-237-3333 FAX.054-237-4021

24時間  
FAX受付中